



最後、別宮のお白石持行事の無事成功したこと、神宮と皇室の弥栄(いやさか)を祈り万歳三唱を行ない閉会しました。



別宮御白石奉献団連合会終了式が行われました。

平成26年度の3つの別宮(月読宮、倭姫宮、月夜見宮)のお白石持行事を円滑に推進するために結成された「第六十二回神宮式年遷宮別宮御白石奉献団連合会」。月夜見宮の御遷宮をもつて全て滞りなく終了したことから平成27年3月26日、伊勢商工会議所4階中ホールにおいて、その終了式が行われました。

終了式には、奉献連合会会長 鈴木健一伊勢市長、総委員長 上高憲伊勢商工会議所会頭、そして神宮司廳担当者、別宮に関わる奉献団役員、町代表約30名が出席。祝辞とともに神宮からの感謝状が贈呈された後、鈴木健一会長からの謝辞において、次回御遷宮に向けて、先人から渡された櫛(たすき)を次世代へとつなぐ、取り組みを、伊勢人の責務として、これからも市民総出で取り組むことが宣言されました。



15日の外宮陸曳は、神宮の奉曳車を使用。3台の奉曳車には、お木曳、お白石持の荷締めを伝えるため、それぞれにお



伊勢神宮奉仕会青年部では、その活動の一環として、25年前から、初穂曳でお納めするお米(稲穂)づくりを手がけ、初穂曳に参加している各協力団体の子どもたちと一緒に、田植え、稲刈りを実施し、お初穂の準備とともに、お米の大切さを伝える機会としています。

今年も4月29日に、JA伊勢と農家の協力を受け、9団体、総勢100名を超える参加者により、田植えを行いました。



初穂曳 (10月15日)

民俗行事の伝承のために
稲穂(お米)づくりからはじまる神嘗祭・初穂曳
子どもたちとともに田植えを行いました。

毎年10月15日・16日の神宮の神嘗祭に、その年収穫されたお初穂を神宮に奉納する「初穂曳」。伊勢の民俗行事、お木曳行事、お白石持行事の伝統継承のため、その技術を伝えることを目的に、1972年(昭和47年)から開催されている行事です。

木、樽、そして米俵と共に、たわわに実ったお初穂が積み飾られます。



石奉献。これをもつて、数年にわたり、伊勢のまちを大いに沸かせた民俗行事の締めくくりとなりました。

各奉献団、また沿道住民のみならず、ご協力ありがとうございました。

お白石持の最終を飾った宮後町奉献団
2月22日、月夜見宮へのお白石持が実施されました。第六十二回神宮式年遷宮お白石持行事は、これで行よいよ最終奉献。トリを務めたのは、所在地の宮後町奉献団、二団です。

一年で最も寒い時季でしたが、前日には、のぼせ車も行われ、当日朝の出発式から約千人が参加。大人も子供も揃っての賑やかな奉曳、そして月夜見宮へとエンヤ曳で曳き込んだあとは、服装を整え、お祓いを受けて、こころ静かに新宮へのお白石奉献。これを



のぼせ車は「ねぶた飾り」車も出て賑やかに



子ども木遣り



綱を出し、木遣りて出発(浦口町出発地)



出発を送る太鼓連



地方連の車を先導に踊りが続く



道中、練って遊んで



奉曳(宮町付近)



奉曳(小西萬金丹前)



エンヤ曳



お祓い



お白石渡し



月夜見宮お白石奉献

平成二十七年二月二十二日
外宮別宮 月夜見宮
お白石持行事 報告